

【事業実施概要】 (丹波篠山市二地域居住促進コンソーシアム)



構成団体

(兵庫県丹波篠山市、一般社団法人観光まちづくり機構、
一般社団法人ウイズささやま、株式会社NOTE)

事業名

移住施策と二地域居住施策のシェアリング実証事業

丹波篠山 霧深けれど
人の情けはなみ深い

兵庫県丹波篠山市に広がる自然「丹波篠山アガリクス」の栽培は、なんと400年以上前から、毎年新しい霧が生まれるという世界でも珍しい経験です。
霧の中には、雲いよほかゆみや人の暮らし、豊かな食の心が蓄わっていて、霧が降ればみんな地元に住む私たちも、数分そのまのの世界を楽しんでいます。
京都や大阪・神戸からの1時間「ちょっと足を伸ばして、のんびり過ごしてみませんか？」

丹波篠山は自然の恵みで育ち、人と自然が共生するまちです。丹波篠山の魅力を最大限に活かすために、丹波篠山アガリクスを栽培する方々を応援しています。

丹波篠山市

令和8年3月

問合せ先：丹波篠山市 企画総務部 創造都市課（檜皮）
TEL:079-552-1111（代表）
Mail:sozotoshi_div@city.sasayama.hyogo.jp

【丹波篠山市概要】



丹波篠山市特定居住促進区域

市内19地区MAP

- | | |
|-------|--------|
| 1 篠山 | 11 大芋 |
| 2 八上 | 12 西紀南 |
| 3 畑 | 13 西紀中 |
| 4 城北 | 14 西紀北 |
| 5 岡野 | 15 大山 |
| 6 日置 | 16 味間 |
| 7 後川 | 17 城南 |
| 8 雲部 | 18 古市 |
| 9 福住 | 19 今田 |
| 10 村雲 | |



兵庫県中東部に位置し、大阪、京都とも接する
京阪神の大都市圏から約1時間 50km
市域の約75%を占める山に囲まれた盆地

人口 38,453人
世帯数 17,804世帯
高齢化率 36.78% (令和8年1月末現在)



歴史的な街並み



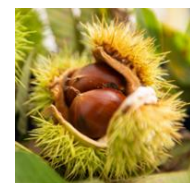
丹波焼



丹波篠山黒大豆



山の芋



丹波栗



ぼたん鍋

事業の概要

【課題】 人口減少による担い手不足、需要の減少による地域産業の衰退、空き家の増加、住民活動の維持

【取組】 移住推進の取り組みとリンクした二拠点居住推進体制の構築

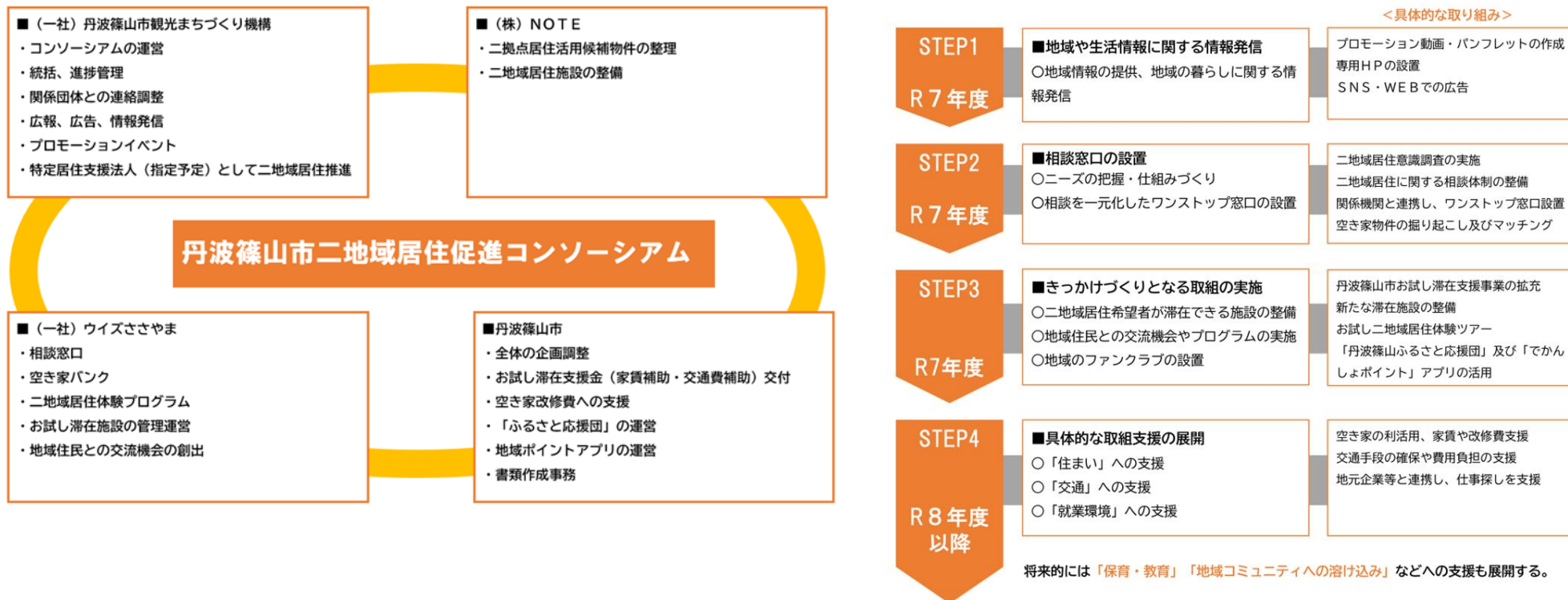
－情報発信、相談窓口、支援制度、体験ツアー

一般の観光では体験できない体験や課題解決につながる体験のコンテンツ化

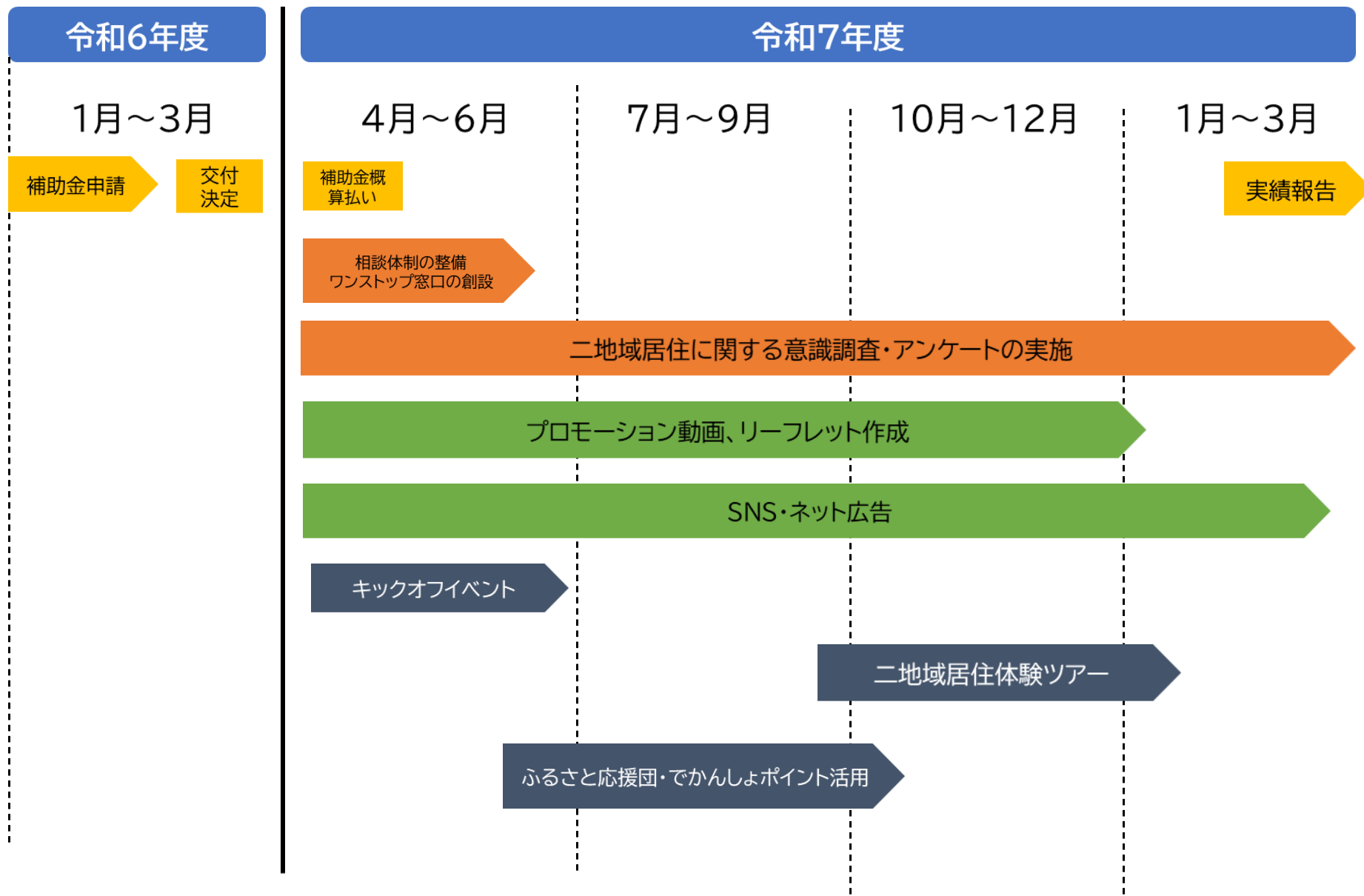
地域ポイント付与による経済循環の促進

【関連事業】 「お試し居住体験ツアー」の実施

【コンソーシアム構成】 兵庫県丹波篠山市、一般社団法人丹波篠山観光まちづくり機構（支援法人指定）、一般社団法人ウイズささやま（支援法人指定）、株式会社NOTE（支援法人指定）



【全体スケジュール】



事業名 移住施策と二地域居住施策のシェアリング実証事業

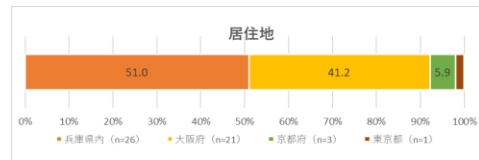
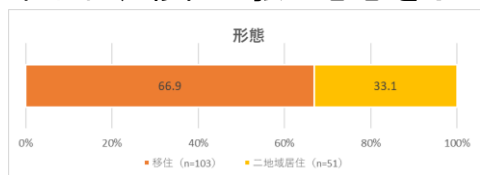
○代表的な取組の具体的な方法、工夫点、得られた成果や期待以上の効果

取組 1 二地域居住に関する意識調査・アンケートの実施

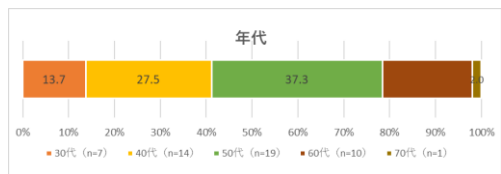
具体的な方法	工夫点
丹波篠山暮らし案内所の窓口業務にて、二地域居住を希望された方への聞き取りを実施した。	希望の聞き取りだけではなく、二地域居住をするにあたって必要な情報の提供を心掛けた

得られた成果や効果

移住相談に来られ、移住に強い意思を示し「丹波篠山市空き家バンク利用登録」をされた方の数 → **154世帯**（R7.4月～R8.1月）



154世帯中、二地域居住を希望された方の数 → **51世帯**（全体の約33%）
【居住地】 兵庫県内26世帯（51%）、大阪府21世帯（41%）、京都府3世帯（6%）、東京都1世帯（2%）



相談者の声（一部）：二拠点生活で週末農業を目指して、週末農業学校に通っている。
 IT系で仕事はリモート、週末を丹波篠山で過ごすために物件を購入した。
 定年（子育て終了）までは二地域居住をしたいと思っている。
 夫は都市部で引き続き勤務し、私（妻）は丹波篠山でゲストハウスを開業したい

【年代】 30代7世帯（14%）、40代14世帯（27%）、**50代19世帯（37%）**、60代10世帯（20%）、70代1世帯（2%）

【移住目的】 リタイアを見越したセカンドライフを目的とする方が最多。次いで、起業や就農を目指す方が多い。
セカンドライフ26世帯（51%）、起業8世帯（15%）、農業5世帯（10%）、子育て4世帯（8%）、芸術活動2世帯（4%）、その他6世帯（12%）

二地域居住を希望された 51世帯中、令和7年度中に物件を成約された方は 10世帯。

事業名 移住施策と二地域居住施策のシェアリング実証事業

○代表的な取組の具体的な方法、工夫点、得られた成果や期待以上の効果

取組2 お祭り体験ツアーの実施

具体的な方法	工夫点
<p>移住、二地域居住、関係人口としての地域への取り組みなどに興味がある方を対象に、丹波篠山の秋の祭礼「春日神社秋祭り」の鉾山の曳き手を、町内会の一員になって体験できるツアーを実施した。丹波篠山秋の味覚「鯖寿司」づくりの体験も同時に行った。</p> <p>【実施日程】令和7年10月18日（土）～19日（日）</p> <p>【参加者数】4組 6名</p>	<p>鉾山巡行の時だけ限定の体験コンテンツにならないように、2日間にわたり鉾山の飾りつけから巡行後の片づけまでの一連を、その町の住民になったかのように体験していただくことを意識した。</p>



得られた成果や効果

- ・ 二地域居住希望者に、地域に溶け込む方法の一つとして提案できた。
- ・ 来年度以降も秋祭りに参加したいと表明する参加者を得ることができた
- ・ 受入れる地域側に、祭の担い手が不足していく中で、将来的な担ぎ手の獲得にこのような二地域居住者、関係人口の方と協力していく方法を示すことができた。



事業名 移住施策と二地域居住施策のシェアリング実証事業

○代表的な取組の具体的な方法、工夫点、得られた成果や期待以上の効果

取組3 田舎暮らし体験 2泊3日のツアー実施

具体的な方法

観光では味わえない丹波篠山の魅力を十分に味わうことをテーマとした「里山暮らしツアー」に二地域居住及び移住希望者に向けた体験型の滞在ツアー実施により、移住や二地域居住もしくは、関係人口へとつなげていく。実際の田舎暮らしを体感して、自分はどこまでできるかを試す場を提供した。

【実施日程】令和7年11月1日（土）～3日（祝・月）

【参加者数】4組 9名（うち幼児2名含む）

工夫点

- ・実際の二地域居住者の体験談、二地域居住をサポートする施設の方の体験談を直接聞いていただく機会を設けた。
- ・二地域居住者も所属している自治会の清掃作業にがつりと参加していただき、「集落の暮らしと付き合い方」を体験していただくことに注力した。
- ・どのコンテンツも、二地域居住の選択肢のひとつとなるよう提供した。

得られた成果や効果

- ・3日間を通して、参加者同士、スタッフとの間、関わった市内の方々と密なコミュニケーションを取っていただくことができ、今後のつながりを築くことができた。
- ・ツアーの行く先で聞いた体験談やお話を通して、二地域居住というものの可能性の広がり、金銭面や仕事、学校などの課題についてじっくり考えていただく機会となった。
- ・ツアー後に参加者の1人が二地域居住を検討され始めた。



事業名	移住施策と二地域居住施策のシェアリング実証事業
------------	--------------------------------

○代表的な取組の具体的な方法、工夫点、得られた成果や期待以上の効果

取組 4 丹波篠山ふるさと応援団・でかんしょポイントの活用

具体的な方法	工夫点
<p>廃校を利用した宿泊施設である「泊まれる学校おくも村」で、丹波篠山に思い入れのある方に登録いただく「丹波篠山ふるさと応援団」と地域内で利用できる「でかんしょポイント」のPRを実施した。</p> <p>【実施日程】令和7年8月10日 【参加者数】20名（うち、ふるさと応援団登録5名）</p>	<p>宿泊者の属性は子育て世代のリピーターが多いため、水鉄砲づくりのイベントを通じて、地域の方との交流を深めた。</p>

得られた成果や効果

- ・地域を応援する「丹波篠山ふるさと応援団」の趣旨を理解いただいた上で、5名の方に登録いただいた。
- ・「でかんしょポイント」は、地域活動等に参加すると市内の登録加盟店で利用できるデジタル地域通貨（ポイント）が付与される制度で、今回、イベントに参加しふるさと応援団登録された5名の方に500ポイントを付与し、地域活動への参加のきっかけを作ることができた。

【課題】

ふるさと応援団の登録はウェブから行うが、操作に不慣れな方などは、時間がかかり、登録の仕方について説明が必要となったことから、改善の必要があると感じた。また、地域とのマッチングを行う「丹波篠山つながり案内所（市運営HP）」の効果的な活用方法を検討し、今後改善していく。



事業名 移住施策と二地域居住施策のシェアリング実証事業

○代表的な取組の具体的な方法、工夫点、得られた成果や期待以上の効果

取組5 二地域居住プロモーション動画・リーフレット作成

具体的な方法	工夫点
<ul style="list-style-type: none"> ・二地域居住経験者のインタビューを中心としたプロモーション動画を作成。 ・丹波篠山移住希望者用サイトclassoへの掲載、SNSでの発信。 ・インタビュー内容をリーフレットにし、相談窓口などに設置し、二地域居住のPRに活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二地域居住者の体験談と生活風景を美しい映像と高度な編集で見せることを心掛けた。ただし、いわゆる市内の映えポイントだけを映すのではなく、あくまで生活者としてのリアルな映像となることを心掛けた。 ・リーフレットは手に取りやすく、わかりやすいものとなることを目指した。

得られた成果や効果

- ・クオリティの高い映像が完成し、二地域居住促進に留まらない丹波篠山の魅力発信につながった。
- ・動画は体験談だけではなく、二地域居住を検討中の方への選択肢の提案、アドバイスという面も含まれ、PRであるとともによい参考資料にもなった。
- ・リーフレットは、インタビューの文字おこしではなく動画を補完し、さらにわかりやすく解説するものとなり、相談窓口などに設置し手に取ってもらうことで丹波篠山二地域居住のきっかけとなる効果が期待される。



【評価報告】 事業全体の成果や効果・今後の予定

事業名 移住施策と二地域居住施策のシェアリング実証事業

成果・効果	課題
<p>【達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none">◆二地域居住に関する相談件数 51件（目標値：30件） うち、10件が二地域居住を見据えた物件成約に至った。◆お試し滞在施設の利用者数 22世帯/年（目標値：25世帯/年）◆二地域居住体験ツアーの参加者数 ①6名/回（目標値：10名/回） ②9名/回（目標値：10名/回） <p>二地域居住に関する意識調査・アンケートを実施することにより、二地域居住希望者の割合や属性を把握することができた。</p> <p>また、現行の移住施策に二地域居住、関係人口創出の視点を加えて事業を実施することにより、継続して二地域居住の推進に取り組む可能性を見出すことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none">・地域の担い手となりうる「丹波篠山ふるさと応援団」への登録方法や地域とのマッチング方法について、簡易に手続きが行えるように改善する必要がある。・二地域居住希望者の現在の居住地は、兵庫・大阪が全体の約9割を占めており、関西圏に限定されている。関西圏に向けたPR施策を展開するとともに、首都圏（関東）への認知度拡大と関係人口創出に向け、新たな層への働きかけが必要である。

今後の予定

関東圏への
二地域居住促進プロジェクト実施

丹波篠山市と歴史的に繋がりの深い東京の青山や若者が集う渋谷を舞台に、東急不動産と連携し、二地域居住推進事業を実施。

地元高校と連携した
関係人口創出事業 実施

ふるさと住民コーディネーターを配置し、地元高校生や卒業生を対象とし、地域住民等と繋がるコミュニティを形成し、関係人口を創出する事業を実施。

ふるさと住民登録制度の活用

「丹波篠山ふるさと応援団」と地域とのマッチングを行う「つながり案内所」のあり方を見直し、ふるさと住民登録制度の活用に向けて取り組む。

その他、今年度行った二地域居住に関する意識調査や二地域居住体験ツアーも引き続き行いながら、交通費補助等について検討していく。